

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立鞍月小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0064
石川県金沢市南新保町リ27-1

E-mail kuratuki-e@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/kuratuki-e/>

幼児児童生徒数 男子 384名 女子 385名 合計 769名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、生活科や総合的な学習の時間において「くらすきの自然・伝統・人を絆で学ぶ～広げよう くらすきの和～」を学校理念とし、ESDを「考える活動を通して、地域との絆の大切さに気づかせる教育」と捉えている。各学年ESDの実践を通して、思考力、情報収集や活用能力、コミュニケーション力の育成を目標とした。

具体的には、環境、地域の伝統文化と文化遺産、食育を柱に、①水やゴミなど地域の環境問題に係わる学習、②歴史的建造物や伝統芸能など金沢の町の魅力に係わる学習、③鞍月地区特有の作物梨栽培に係わる学習を行った。

① 水やゴミなど地域の環境問題に係わる学習

4年生『めざせエコタウン鞍月』

鞍月地区には、犀川の上菊橋上流を取り入れ口とした鞍月用水が校区を流れ、地域の人にも親しまれている。4年生では、鞍月用水を環境の視点で捉え直し、自分の生活を見直したり用水を守るためにはどうしたらいいのか考

えたりすることをねらいとし、実践した。まず社会科の学習でリサイクルプラザを見学して、多くの物をリサイクルしていることを学んだ。その後身近な鞍月用水の環境や、ゴミなどからテーマを選んで調べ活動を行った。鞍月用水を守るために節水、リサイクルなど実践できることを考えて、鞍月フェスティバルで異学年や保護者に発信した。

② 歴史的建造物や伝統芸能など金沢の町の魅力に係わる学習

6年生『金沢博士になろう』

6年生は、自分たちのまち「金沢」について、今までさまざまな視点で学習を積み重ねてきた。6年では、歴史的建造物や伝統芸能が金沢に住む人々の力で大切に残されてきたことを学習した。そして小学校生活で学んだ金沢の良さについて改めて考え、金沢に住む一人として多くの人にその魅力を知ってもらおうと、学習発表会で発信した。また、地域の人にも金沢の魅力を再確認しふるさとに愛着をもってもらおうと、地域の掲示板に一人一人が魅力をまとめたポスターを掲示した。これらの活動を通して、金沢に生まれたことに誇りを持ち、児童の金沢を大切にしようとする心を育むことができた。

③ 鞍月地区特有の作物梨栽培に係わる学習

3年生『梨博士になろう』

梨は、昔から鞍月地区特有の作物で、地元の生産者によって栽培されてきた。3年生が地元の生産者から指導を受け、栽培を体験することで、地域との絆を深めることをねらいとして学習を展開した。生産者の方と関わる中で、梨を作り続ける思いを知ることができた。収穫後は採れたての梨を全校児童に試食してもらったり、保護者や地域の方に向けての販売会を開いたりして、おいしさを発信することができた。



① リサイクルプラザ見学の写真



② 除幕式の写真



③ 梨の収穫の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

金沢市観光協会ウェブサイト 親子で学ぼう！旧町名小冊子「旧町名について学び知ろう」
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、生活科や総合的な学習の時間において「くらすきの自然・伝統・人を絆で学ぶ～広げよう くらすきの和～」を学校理念とし、各学年の教育課程に何とのつながりを通して何を学ぶのかを明確に位置づけている。今年度は学習成果を「鞍月フェスティバル」という発表の場を設け、他学年の児童や保護者に向けて発信した。しかし、相手や方法がはじめから限定されており、主体的な学習につながらなかった。そこで来年度からは、誰に何をどのような方法で伝えたいのかを思考させ、よりメッセージ性のある主体的な学習にしていきたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に、12月に「鞍月フェスティバル」という学習発表会があることを全職員で確認した。その発表会に向けて、4月から「知る・関わる・考え行動する・広める」の学習過程を大切に学習を進め、どの学年も発信につながるような学習展開としていくことを共通理解し、取り組んできた。発表会では、これまでどのような学習をしてきたのか職員同士見合うことで、各学年の学習成果も共通理解することができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学習成果を模造紙にまとめ、「金沢ふるさと学習合同展示会」で金沢市内の小学校や、金沢ふるさと偉人館を訪れる観光客などに発信することができた。各校の取り組みをお互いに交流することで、どの学校も地域の素材を十分に生かし、学習を展開していることを確認することができた。そして、やはり地域へ発信する力が弱いことが課題だと感じた。来年度改善していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「鞍月フェスティバル」で、保護者や他学年の児童に学習成果を発信した。学習したことを各学年様々な方法で発信し、成果を実感することができた。また、6年生では金沢ふるさと学習で、金沢について6年間学んだことをもっと多くの人に知ってもらい、かなざわへの愛着をもってもらうと、地域の建築施設の壁に6年全児童130名分のポスターを掲示した。そのポスターには、1人1人が金沢の魅力について考えたことや、金沢に住む1人としてどう魅力を継承していくのか考えたことをのせた。地域の人にも強いメッセージを届けることができ、児童も6年間の成果を感じることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

3年生は、地域の生産者の方に梨の栽培方法について長年継続して指導していただいている。5年生は、無農薬農法について育友会や地域の方に指導していただき、一緒に田植えや稲刈りなどをして交流を深めている。また作ったお米に合う梅干しを作ろうと、今年度は中央卸売市場の方から指導していただき、梅干し作りを体験した。6年生は、国土交通省北陸整備局の方にご協力いただき、建築施設の壁面に学習成果を掲示し、発信することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

6年生では、金沢の歴史的建造物について学習した後、国語科の学習「ようこそ、私たちのまちへ」で学習したことを生かして、金沢の見所パンフレットを作成した。その後宿泊体験学習で行った青年自然の家で、共に宿泊することになっている富山市立速星小学校の6年生にプレゼントした。速星小学校では、宿泊体験学習の後金沢観光の予定が入っており、そのパンフレットを見ながら歴史的建造物を回ることで、金沢の魅力をより知ってもらうことができた。速星小学校からも、地域の伝統的な民謡を合奏してもらい、お互いの地域の良さを感じることができた。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコス쿨として、より地域との絆を意識するようになり、児童1人1人がこれまで気づけなかった良さを発見したり、再確認したりすることができた。また職員も、地域と交流しながら学習を進めることで、地域に開かれた学校作りを進めることができた。各教科のカリキュラムにおいてもESDの視点で捉え直すことができ、教科横断的な学習を展開することができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校は学年で系統性を大切にするため、平成30年度も(1)にあるものと同じような活動を行っていく。その中で、今年度課題としてあげられたことを改善していくことを目指す。

まず、学習の発信についてである。今年度行った鞍月フェスティバルは発信する相手や方法が限定されており、児童の主体的な活動については課題が見られる。来年度は、発信したい相手や方法も自分たちで思考させたい。そのために、一斉に同じ相手に発信する鞍月フェスティバルをなくし、誰に何を伝えたいのかを考え、より児童の課題意識を大切に学習を展開していく。

発信についても、保護者や他学年児童と校内にとどまっている学年が多く、外への発信が弱い。誰に何を伝えたいのか思考することで、よりメッセージ性のある発信を地域へと広げていきたい。